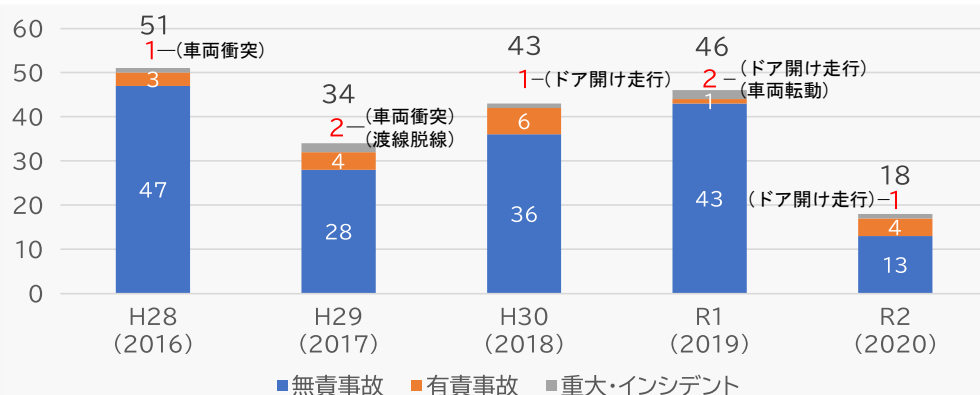


1. 概要・目的

重大事故や事故が発生するおそれがあると認められる事態、いわゆる「インシデント」が毎年発生している状況から、事案毎の再発防止策に加え、組織的な対応策を検討、実施することで、交通事業者の最大の責務である輸送の安全を確保し、誰もが安全・安心に利用できる市電を目指す。

2. 事故件数の推移(過去5カ年)

- R2年度の事故件数は減少したが、重大事故・インシデントが毎年発生している。
- R3年度も4月4日にインシデント(ドア開け走行)が発生。

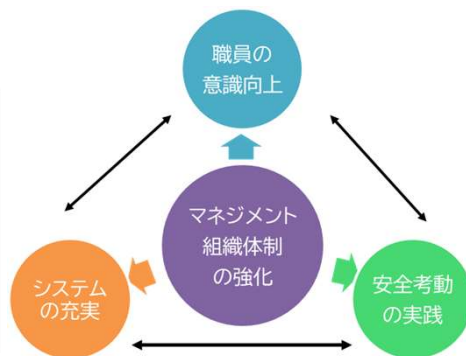


3. 現状・課題及び対応方針

【組織内での議論を通じて浮き彫りとなった現状・課題】

- 職員一人ひとりの安全意識の偏り
- 情報や意識が現場の中で共有されていない
- ヒヤリ・ハットに気づいても声があがらない組織風土

■ 職員の意識、安全考動の実践、システム(設備やルール等)の充実が相互連携するよう、組織でマネジメントできる体制を構築する。

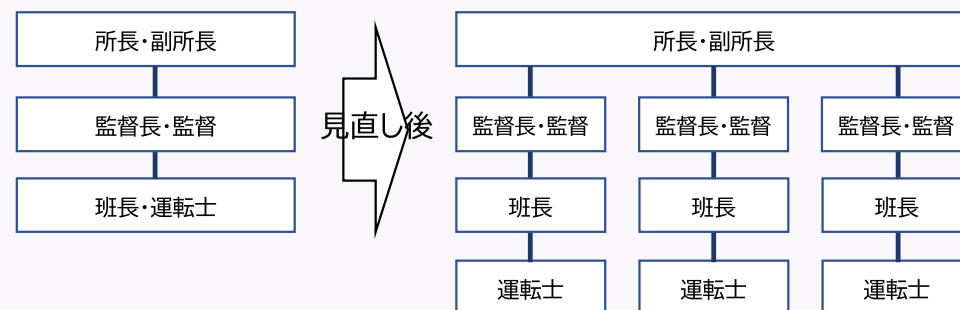


4. 取組内容

< ① 組織体制の強化 >

- ・各役割を明確にし、トップから現場まで情報共有できる体制を構築する。特に、現場の指揮系統を見直し、各班毎に担当監督長、監督を決めることで、責任と役割を持たせる。(情報伝達やコミュニケーションを図る。)

【運行管理課 大江営業所の組織】



< ② 職員の意識向上 >

- ・乗務員の育成
(採用カリキュラムの見直し、安全意識の重要性に力点を置いた外部講師研修)
- ・表彰制度の拡充
(班別表彰の導入やヒヤリ・ハット情報により事故の芽を顕在化させた職員が評価される環境整備)
- ・安全対策の調査・研究、実践(事故が少ない他事業者の視察)
- ・運転取扱いの定期的な確認・見直し
(ドライブレコーダーで定期的に運転を確認し、指導の効果検証、見直しを行う。)

< ③ システムの充実(設備の安全性向上) >

- ・安全対策への予算優先配分
(ヒヤリ・ハットで顕在化した課題への投資には優先して予算化)